

【概要】

薬剤疫学とは、「人の集団における薬物の使用とその効果や影響を研究する学問」と定義されている。薬物の効果や副作用に関する研究には、医薬品開発の際に行われる「治験」と、医薬品が市販された後に行われる「市販後調査」ならびに「臨床試験」がある。臨床試験において得られた結果は、薬物療法を行う上での根拠(エビデンス)となり、これを利用した医療(Evidence Based Medicine ; EBM)が最近注目されている。この講義では、薬剤疫学ならびにEBMの基本概念と有用性について理解し、薬剤疫学研究に関連する情報を評価する能力を修得する。また、臨床における薬剤師業務において、これらの知識や技能がどのように活用されるかについて理解する。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による。